

第4回 蒲郡北地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日 時：令和3年8月22日（日）

午後1時30分～午後4時30分

主 催：蒲郡市

ZoomID：926 5659 2398

パスコード：875859

プログラム

開会	1：30
あいさつ	
事務局からの説明	1：35
・ワークショップの趣旨・目的 ・進め方とスケジュール ・前回の振り返り ・再配置プラン案について ・評価の視点について ・本日の検討内容	
(休 憩)	2：15
グループ討議	2：25
発表	4：00
事務連絡	4：25
閉会	4：30

<目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 1
- ・ 進め方とスケジュール 2
- ・ オリエンテーションアンケートでいただいたご意見 7
- ・ ご質問等への回答 14
- ・ 蒲郡北地区の課題と課題解決に向けた方策 24
- ・ 蒲郡北地区 地区利用型施設再配置プラン案 25
- ・ (参考) 各プランにおける児童・生徒数の見込み、通学距離 28
- ・ 評価の視点 30
- ・ 本日の検討内容 31
- ・ (参考) 蒲郡北地区の公共施設の概要 32

<別冊資料>

- ・ 蒲郡北地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ資料集

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を参考に蒲郡北地区（中部中学校区）の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

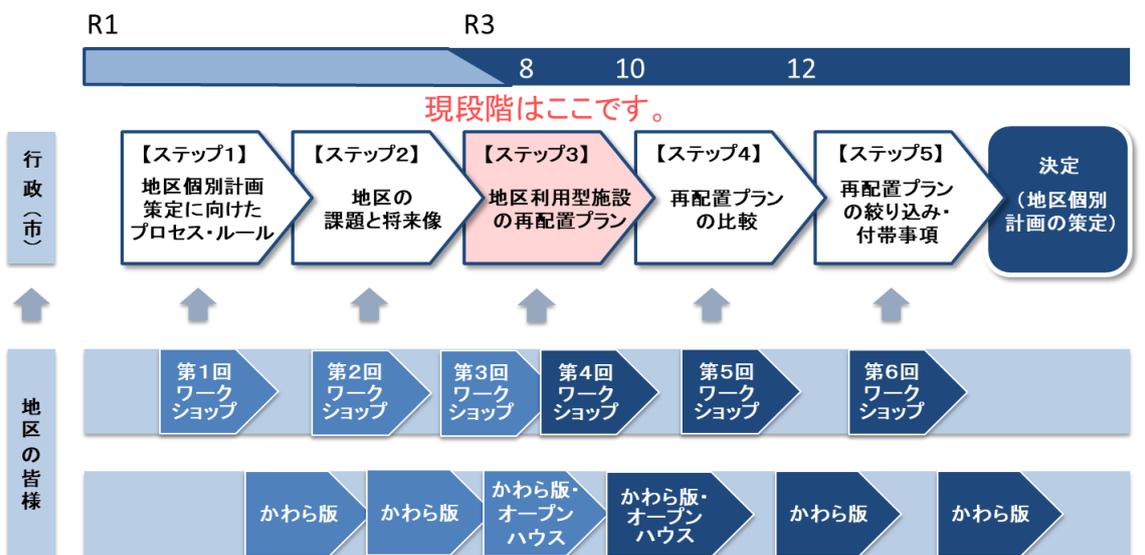
進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランを比較するための評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき評価し比較します。
- ステップ5** 再配置プランを絞り込むとともに、運営面での工夫等の付帯事項について整理します。

2 スケジュール（予定）



3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ・ ワークショップ
- ・ オープンハウス（パネル展示型説明会）
- ・ かわら版



【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、開催を予定しています。

【かわら版】

地区内の各世帯に配布するチラシです。各回のワークショップ終了後、広報がまごおりとともに配布を行います。ワークショップでのご意見や検討された再配置プランなどをお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

4 ワークショップの概要

- ワークショップは、令和3年12月までに3回開催します。
- 原則、日曜日に開催します。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインで開催します。ご自宅等からの参加が難しい場合は、中部中学校にて参加できます。
- 事務局は、蒲郡市総務部公共施設マネジメント課が担当します。
- ワークショップには、公募でご応募いただいた方が参加します。
- 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ワークショップでは、参加者の皆様にグループ討議で自由にご議論いただきます。
- 中部中学校に設置された中継会場から一般の傍聴者や報道関係者が会議を傍聴することができます。

5 ワークショップの進め方

- グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会進行を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、各回ワークショップの最後に各グループの議論の結果を発表します。
- グループ討議の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由で前向きな議論をお願いします。
- 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行います。話し合いの様子を記録する場合がありますことをご了承ください。

6 ワークショップの成果

- ワークショップでのご意見を踏まえて複数の再配置プランを評価・比較し整理します。
- 整理した内容は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。

7 ファシリテーターのご紹介

～こんにちは。皆さんの議論を円滑に進めるために、第三者的立場から議事進行やとりまとめをお手伝いします。どうぞよろしくお願いいたします。～

なばた めぐみ
名畑 恵

NPO 法人 まちの縁側育くみ隊

ふじもり みきひと
藤森 幹人

株式会社 対話計画

かつらやま としあき
葛山 稔晃

株式会社 対話計画

いなば ひさゆき
稲葉 久之

フリーランス・ファシリテーター

- 話し合いに積極的に参加しましょう
- 自分の考えを率直に述べましょう
- 前向きな思考で発言しましょう
- 評論家ではなく当事者として関わりましょう
- 他の参加者の意見に耳を傾けましょう
- 気持ちよく運営できるよう協力しましょう
- 議論や運営に貢献する姿勢を讃えましょう

(必要があれば追加しましょう)

オリエンテーション アンケートでいただいたご意見

1

今後の検討の軸となる「8つの視点（前回資料p.19参照）」について追加すべき考え方やいいなと感じた考え方はありますか？

- 8つ視点につきましては、小学校、公民館、保育園の担当の方や先生のお話を聞くことで、より分かりやすいものとなりました。
2の学校の再編成につきましては教育委員会のお話が聞けたこと、P2の資料にある現在の保護者のアンケート結果もあり、今後の生徒数、学級数の今後の見通しも拝見し、小規模校対策はこれからは必要と感じました。手厚く、良い教育環境となるのであれば、子供にも必要なことと感じました。
北地区は田舎で、のんびりと、穏やかな人の良いイメージの地区ですので、学校を再編しても、それを生かしたような編成をしたらどうでしょうか？編成をしましたら少人数ではなくなりますが、田舎の自然を生かしたようなのんびりした環境の特色を生かした学校にしてはどうでしょうか？蒲郡の山の学校のような特色で小中一貫校もよいのではないかと考えます。または、田舎を生かした公園、保育園、児童館、児童クラブ、小学校など子育ての場。
3の保育園のお話を聞くことが出来良かったです。統合により延長保育や未満児保育のサービス向上はとても必要と感じます。
そして追加していただきたいことが、今後保育園を新しくしていく場合、保育園を利用するお母さんたちが保育園の駐車場が少なくて困るという話をよく聞きますので、駐車場を広くしていただきたく思います。朝夕の送り迎えのためだけに広い駐車場は無駄になるかもしれませんので、そのためには保育園も児童館や公民館、公園などと集めた場所を考えないといけないのかもしれません。
4の公民館につきましてはましても担当の方のお話を聞け良かったです。

私は公民館を大きくすることで、施設も充実すると考えましたが、やはり高齢化が進んでおり、やはり地元、近い場所に気楽に立ち寄れる場所があることは大変大切に思われます。

災害なども近年多くなり、避難のできるようなしっかりした場所、例えばですが新型コロナの接種が受けられるような場所も北地区にもあるほうが望ましく感じます。

- 1、2がこの中でも主要な軸となってくると思われますが、ワークショップで話を進めていく中で、追加すべき考え方も見えてくるのかも知れません。その際は、ご意見等させていただきます。

- 何をどう決めていくのか、優先順位の視点を設けた方が良いかと思えます。例えば、小中学校の統廃合の問題も、教育環境を最優先に考えるのであれば、標準規模は最低限維持するという程度なのか、積極的に大規模にするのか、を決めていくことになります。この場合、西部小の統廃合は待ったなしで、所与の条件となります。また、教育環境よりも地域活動や高齢者の居場所づくり、利便性確保という視点を優先するのであれば、どんな小規模な学校であっても位置関係次第では残していくべきという結論になるのではないのでしょうか。

子育て環境に関しては、どのような子育て環境が望まれているのか、認定こども園の他にも各幼稚園や既存の民間施設では何が不足して何が過剰なのかについて、現場の視点が欲しいと感じました。

- (1) 公民館のあり方については、現代社会において根本的に子供や若者に公民館が必要なのかどうか、個人的には疑問があります。

批判もあるとは思いますが、これはPTAや子供会役員をやりたがらない人が多く、各学校で小規模化や廃止が検討されているのと同じで、公民館そのものに魅力がないとかそういったこと以前に、現代社会に逆行しているように感じます。

多様性が求められている今、子供たちはやりたい事や習い事の為に市外

や県外に行きます。公民館ではBMXもボルダリングも習えません。公民館に行く意味はあまりない訳です。なので、そもそも、子供や若者を取り込む事より、お年寄りに寄り添った施設にしていればいいのではないかと思います。公民館をお年寄りの交流の場、活動の場、として割り切ってしまえばいいように思います。

(2) 小中一貫校の導入はありだと思います。義務教育学校の6・3教育の考え方はもはや古いし、公民館ではないですが、多様性が求められる現代においては、先を見据えた色々な学習方法が取り入れられるメリットがあります。ただし、これは蒲郡すべての小学校、中学校が一斉に実施しなければ意味ありません。そうなると導入はかなり難しく、実際には導入されないだろうな、、、と思いますが。

- DXの視点を入れなくていいのか？今回のオンラインのワークショップもその一部であり、行政としても市民に理解してもらい取り組みも必要なのでは？
- 8つの視点について、検討の軸となる視点に関してはよいと思います。子どもや高齢者は、発言する術を持っていなかったり、車に乗れず徒歩移動など移動に制限があります。社会の中では弱者の立場であるので、そのような人たちにとってどのような街づくりをしていく必要があるのか、改めて考えていきたいと思います。

疑問に感じた考え方

また、保育園はすべての園で低年齢児保育ができるよう、サービスを向上させるために統合する必要があるとありますが、統合することでその地域から保育園がなくなり、遠くの園へいかなければならない家庭もたくさんでてきます。また、低年齢児保育が必要な家庭もちろんありますが、育児休暇が3歳まで取得できる企業の増加していたりなど、働き方も様々なこの社会において、必ずしも低年齢児保育の需要が増えているとは言い切れないと思います。統廃合によって遠くの園に通園しなけ

ればならなくなり、逆にサービスが低下すると考える家庭も少なくないと思います。待機児童がいるわけでもないし、保育園同士を無理に統合する必要は全く感じられません。逆に、子どもが育っていく環境を、効率化して考えていくことのほうが、子どもの育ちに弊害を与えると考えます。子どもは声をあげられません。まだ小さな未就学の子ども達にとって、統合して広がった地域の中で育っていくことが本当によいことなのか、疑問に感じました。

- このワークショップが開始されるきっかけはよくわかりませんが、公共施設の老朽化による施設の更新・維持コストがあるように思います。「将来負担の縮減」とありますが、この中に再配置（構築）コストの視点が含まれていると思ってよいのでしょうか。

- 小中一貫校や幼稚園、図書館、公民館などを統合する考え方は、良いと思います。学校は閉鎖的なものではなく、市民が交流できる場であることは教育面でも良い効果が生まれると思います。一方で、開放による生徒の安全には十分に配慮する必要がありますので、慎重な学校施設やルール作りが必要であると感じています。

学校数を減らすことに賛成ですが、生徒の通学には配慮が必要です。生徒の通学時の安全面も考慮するとスクールバスの採用も検討していいのかもしれません。

現在多数存在する施設の実質的な必要性を十分に議論して必要としない施設は可能な限り無くしていくべきだと考えます。そこにある事が大事だという考え方は改めるべきで、将来の負担は最大限縮小しましょう。

- ⑤安全安心のところでは、今後の道路の開通の状況によって変わるとは思いますが、国京地区にまで大型トラックがきており、何とかならないかと思います。

⑧運営の改善→飲食業を巻き込んでイベントで利用する→その前に施設を新しくするなり、近くの同じような施設と統合するほうがよいと思い

ます。

2 その他（ご自由にご記載ください）

- 参加者の地区別の割合（北部、中央、西部）をお答えできる範囲で教えていただけたらと思います。
- 過去のワークショップに照らすと、議論の焦点が定まっておらず、意見など極めてしにくい環境でした。たとえば、予算が足りないから公共施設の縮小をしたいけど、どうしたいのか、という大前提のテーマですら共有できておらず、維持費が足りなくなる根拠が分からないとか、人口増加施策をすべきという意見が出てきてしまっています。

また、このワークショップはあくまでも参加者の意見を聞くものなのに、もっと他の人の意見を聞くべきとか、趣旨不明の意見も散見されます。こういった枠で、こういった意見を聞きたいのか、明確な方針を持ったほうがいいと思います。でないと、全国でよくある、なんだか理想的っぽいふわっとした箱物案に終わってしまいそうです。

いずれにしても、現在のように全ての条件を並列処理するのは、よっぽどの天才でも無い限り難しく、まして集団での議論は不可能となるので、一つ一つテーマを絞って、優先順位順に話し合いをしていただけると良く理解できるし、意見も言いやすいです。

- zoom 会議で、カメラを OFF にされてる方が何人かいました。カメラは OFF でも、参加していることが事務局に分かれば、それでも大丈夫ですか？出来れば OFF したいです。顔出し NG なので笑。
- 20 年後の人口減少を想定する前に、人口減少を抑制させる施策はないのか？

人口減少、高齢化がキーワードであり、施設統合＝遠方になるのが決定的であれば、コミュニティバスやチョイソコなどを充実することを前提に

協議したほうが、意見が発散しないのでは？

未来を支える子供の親世代（20～30代）のメンバーを増やした方が将来に繋がるのでは？

- オリエンテーションに参加するまで、小中学校規模適正化方針と公民館・保育園のランドデザインをどこまで重視して考えていったらいいのかわかりませんでした。（これらに反する意見は最初から述べるべきではなく除外すべきなのかなど） ですが、市役所の方の「これらは市の一方針としてとらえてもらって、このワークショップでは市民の皆さんの自由な考えを述べてほしい」とのお言葉を聞き、今後のワークショップでは、これらの方針を踏まえながらもそれにとらわれることなく、この地域に住む市民として、考えを述べていきたいと思いました。
- このワークショップでは既存の保育園、小中学校、公民館の施設を対象としたハード面にウエイトが置かれているように思いますが、ソフト面にも踏み込まれるのでしょうか。
- 初めての参加になりますが、これから世代の違う方達の意見が聞ける機会がないので良い機会だなと感じました。今回意見で、高齢者の問題なり携わっている市の職員の方がいらっしゃると話もスムーズに進むのではないかと思います。わからない事がまた調べて資料にさせていただくとわかりやすいですが、ちょっとした質問に答えられる方が居てくださると話がスムーズだと思いました。よろしくお願いいたします。
- 20年後、30年後に愛知県の中で蒲郡市がどういう市となるべきかという、蒲郡市全体としての将来の目標はあるのでしょうか？そのような将来像があるべきで、今回蒲郡北地区の町づくりへの活動がその将来像に従っているのかを教えてくださいたいです。蒲郡市の各地域でそれぞれの考え方で進めることで統一感のない蒲郡市になることは適切ではありません。さらに、その考え方にも依りますが、蒲郡市の顔である蒲郡駅前には市民や市外からの来訪者にとってシンプルでありながら魅力のあるものとするべ

きです。

- R3 第一回ワークショップに参加して、参加人数の少なさに違和感を感じた人は多いのではないか。参加者が何かの代表というわけではなさそうだし、この形態で今後も進め、意見をまとめるのは正直どうかと思う。
- 資料をメールに添付していただくことは可能でしょうか？ ご検討をお願いします。
- 高齢者が施設を利用する場合どうするのか、という質問がありましたが、バスと関連付け、その人が移動しやすいようにする、というのはどうでしょうか。

近くを散歩していたらこんなところにも体の不自由そうな方がいらっしゃると気づきました。その人たちは大雨の時などどうしていらっしゃるかと思います。

中学校での机の並びをせめて横並びにできないでしょうか。

ご質問等への回答

- Zoom会議でカメラをOFFにされている方が何人かいました。カメラはOFFでも、参加していることが事務局にわかればそれで大丈夫ですか？できればOFFしたいです。

今回（8/22）より住民の皆様同士でグループワークを行っていただきます。ファシリテータの円滑な進行や通信状況等にトラブルが起きていないかの確認のためには皆さまの様子を確認できる状況が必要です。お手数をおかけしますが、カメラのONにご協力をお願いいたします。

- わからないことはまた調べて資料にさせていただくとわかりやすいですが、ちょっとした質問に答えられる方（市の担当職員）がいてくださると話がスムーズだと思いました。

ワークショップを傍聴する方のために、傍聴用の部屋を設けています。そこでは、施設所管課や関連する部署などの職員もワークショップの様子を確認していますので、オンライン上で質問することも可能です。なお、それでもお答えすることができない質問等に関しましては、次回ワークショップの資料の中で回答するなどの対応をさせていただきます。

- 資料をメール添付していただくことは可能でしょうか？ご検討をお願いします。

事前にお送りさせていただく案内メールに、資料を格納したURLを記載させていただきます。ご入用の方はご活用ください。

- 中学校での机の並びをせめて横並びにできないでしょうか。

新型コロナウイルス感染症の飛沫感染防止のため、現状の机の配置とさせていただきます。ご理解いただきますようお願い申し上げます。

- 今回のワークショップに参加して、参加人数の少なさに違和感をもった。参加者が何かの代表というわけではなさそうで、この形態で今後も進め、意見をまとめるのはどうかと思う。
- 未来を支える子供の親世代（20～30代）のメンバーを増やした方が将来に繋がるのでは？

令和元年度につきましては48名の方にご参加いただき、4グループに分かれグループ討議を行いました。今回のワークショップは、オンラインでの開催を踏まえ、参加者に満遍なく発言いただくことが可能である人数を検討し、1グループ8名で4グループを想定した32名程度の定員とさせていただきます。なお、募集の結果、前回から継続して参加いただいた方24名と、今回よりご参加いただく方9名の合計33名でワークショップを行います。一方で、全体の人数が減ってしまった分、参加者の年齢や住んでいる地域など多様な方にご参加いただけるようお声がけ等をさせていただいています。また、未来を支える子どもの親世代のご意見は、ご指摘の通り重要であると認識しています。そのため、各学校や保育園にもご協力いただき、開催のご案内を行っています。

このワークショップは、5つのステップに沿って段階的に議論を深めていくため、同じ方に継続してご参加いただく必要があると考えています。そのため、今後新規に参加者を募集することは考えておりませんが、かわら版やオープンハウス等の実施により参加者以外の方のご意見も聴収していきたいと考えています。

- 参加者の地区別の割合を（北部・中央・西部）をお答えできる範囲で教えていただけたらと思います。

参加者の小学校区別の割合は、おおよそ「北部小：西部小：中央小＝4：3：3」となっています。グループワークではできるだけ様々な立場の方と意見交換していただけるよう、お住まいの地域やご年齢等をもとにグループ分けさせていただきます。

- 何をどう決めていくのか、優先順位の視点を設けた方がよいかと思います。

8つの視点は令和元年度に参加者の皆さまから頂いたご意見をもとに作成しており、どれも重要な視点であると考えているため、現時点では優先順位をつけることは考えていません。しかしながら、皆さまが地域の将来を考える際にどのような点を重視したのかについては、市が今後地区個別計画を策定する段階における検討要素の一つとなります。今後、プランの絞り込みを行う段階において、皆さまが重視する視点についてのご意見もいただければと思います。

- 過去のワークショップに照らすと、議論の焦点が定まっておらず、意見など極めてしにくい状況でした。……どういった枠で、どういった意見を聞きたいのか、明確な方針を持った方がいいと思います。……、一つ一つテーマを絞って、優先順位順に話し合いをしていただけるとよく理解もできるし、意見も言いやすいです。

前回からの引き続きのご参加ありがとうございます。また、過去のワークショップでは議論の焦点が定まっておらず、話し合いがしにくい状況であったとのこと指摘もありがとうございます。グループワークに入る前に、事務局から各回のテーマ、テーマ設定の趣旨等について分かりやすくご説明するよう心掛けます。また、ファシリテーターとも事前にテーマ設定に関して打ち合わせをし、皆さまがご発言しやすい環境づくりに努めてまいります。

- 20年後、30年後に愛知県の中で蒲郡市がどういう市となるべきかという、蒲郡市全体としての将来の目標はあるのでしょうか。そのような将来像があるべきで、今回蒲郡北地区のまちづくりへの活動がその将来像に従っているのかを教えてくださいたいです。

市政の運営やまちづくりの指針となる本市の最上位計画である「第五次蒲郡市総合計画」では、2030年の将来都市像として「豊かな自然 一人ひとりが輝き つながりあうまち ～君が愛する蒲郡～」を掲げています。

この将来都市像を実現するため、まちづくりの柱として6つの基本目標を設定しており、その1つが「市民とともに歩むまちづくりー地域・行財政」です。この目標は、「社会の変化や多様化する市民ニーズに対応していくため、地域コミュニティの活性化や市民一人ひとりが活躍できる環境づくりを行い、市民とともに歩むまちづくりをめざします。また、持続可能なまちづくりのため、より適正な行財政運営を推進します。」と説明されています。また、分野別計画にも「公共施設の適正な管理」を掲げており、ニーズに合った施設配置によるまちのにぎわいや、施設の適正な管理による安全性の確保や財政の健全化といっためざす将来の姿を示しています。

今回のワークショップは、公共施設の建て替えを見越して“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指すために、地域の皆様のご意見を伺うことを目的に開催しています。

このように、今回のワークショップは第五次蒲郡市総合計画に掲げる将来都市像を達成するための取り組みのひとつとして位置付けています。

- 20年後の人口減少を想定する前に、人口減少を抑制させる施策はないのか？

前回のオリエンテーションでは、今後の人口推計として2種類の数値をご説明しました。市が目標値として「蒲郡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」で掲げている数値（約 61,000 人/2060 年）は人口減少対策に取り組むことにより、合計特殊出生率（女性 1 人が出産する子どもの数の平均値）が 2.07 まで上昇する前提で算出をしています。今年6月に策定した第五次蒲郡市総合計画においても、子育て環境の整備や定住促進などにより人口減少スピードの緩和を目指しています。なお、直近の蒲郡市の合計特殊出生率は 1.40（平成 25～29 年）となっています。

一方、現在の状況が続いた場合の人口の見込みにつきましては、「社会保障・人口問題研究所」が推計を行っています。こちらでは、2060 年の市全体の人口の推計値は約 57,000 人と見込まれています。

このように、人口減少対策に取り組むことにより、人口の減少を緩やかにすることはできますが、人口減少自体は全国的な傾向であり、人口減少抑制のための施策と合わせて、将来負担軽減の取り組みについても行わなければならないことをご理解ください。

- 子育て環境に関しては、どのような子育て環境が望まれているのか、認定こども園のほかにも各幼稚園や既存の民間施設では何が不足して何が過剰なのかについて、現場の視点が欲しいと感じました。

令和2年3月に市内保育園通園児の保護者を対象に行ったアンケートでは、現在の保育園を選択した理由として、自宅から近いことや小学校区内に立地していること等の立地条件のほか、低年齢児保育を実施していることを挙げている方が多い結果となりました。また、民間保育園に通園している園児の保護者のアンケート結果を見ると、園の雰囲気が良い、園の運営方針や教育理念に共感したなど、立地条件以外の理由で選択している保護者が一定数あることが分かっております。

これらのアンケート結果や近年の低年齢児の入所率の増加傾向等を踏まえ、市では低年齢児保育等の提供サービスの充実や、公立園・民間園など多様な保育が選択できる環境が必要であると考えています。

また、保育園等の施設の概要や地区内の立地状況を次のページにまとめましたので参考にしてください。

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

(参考) 保育園等の施設の概要

種類	概要	立地状況
保育園	<p>【入園対象】 園により異なる 0歳～3歳から小学校就学前まで</p> <p>【入園条件】 保護者が働いているなど、<u>保育を必要とする状況にあること。</u></p> <p>【保育時間】 園により異なる 午前7時30分～午前8時30分から 午後4時30分～午後7時まで</p>	3園（公立） 北部、西部、 中部
認定こども園	<p>【入園対象】 園により異なる 0歳～2歳から小学校就学前まで</p> <p>【入園条件】 保育園認定と幼稚園認定で条件が異なる。</p> <p>【保育時間】 園により異なる 午前7時30分から 午後6時30分～午後7時まで (教育標準時間) 1日おおむね6時間</p>	地区内に なし
幼稚園	<p>【入園対象】 満3歳～小学校就学前</p> <p>【入園条件】 入園に必要な年齢を満たしていること</p> <p>【保育時間】 1日おおむね6時間 保育時間終了後は「預かり保育」を、夏休み期間中は、それぞれの園で「夏期保育」「夏期預かり保育」を実施</p>	地区内に なし
認可外保育施設	<p>(下記の内容は光の園のもの)</p> <p>【入園対象】 2歳～小学校就学前</p> <p>【入園条件】 入園に必要な年齢を満たしていること</p> <p>【保育時間】 午前8時30分～午後4時30分 ※必要に応じて延長保育が可能</p>	蒲郡バプテ スト教会 光の園

※ 隣接する蒲郡中学校区に木船幼稚園（認定こども園）あり

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 低年齢児保育が必要な家庭もちろんありますが、育児休暇が3歳まで取得できる企業が増加するなど、働き方も様々なこの社会において、必ずしも低年齢児保育の需要が増えているとは言い切れないのでは？

保育園グランドデザインでは、2010年から5年ごとに市内の就学前児童数及び保育園入所児童数と、2040年までの見込みを掲載しています。これによると、2010年から低年齢児(0-2歳児)の入所数が大きく伸びています。また、今後も低年齢児の入所数は増加する見込みであることから、将来的な蒲郡市における低年齢児保育の必要性は、今まで以上に高まることが想定されます。

		2010年	2015年	2020年	2040年
0歳児	入所児童数	33	37	61	103
	就学前児童数	638	552	494	385
	入所率	5.17%	6.70%	12.35%	26.71%
1・2歳児	入所児童数	253	298	405	576
	就学前児童数	1,315	1,226	1,156	901
	入所率	19.24%	24.31%	35.03%	64.03%
全体	入所児童数	1,540	1,560	1,670	1,680
	就学前児童数	3,970	3,768	3,439	2,680
	入所率	38.79%	41.40%	48.56%	62.69%

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

- 人口減少、高齢化がキーワードであり、施設統合＝遠方になるのが決定的であれば、コミュニティバスやチョイソコなどを充実することを前提に協議したほうが、意見が発散しないのでは？

現在、蒲郡市では交通空白地解消を目的としてコミュニティバスが5路線運行しています。中部中学校区内においては、豊岡町・五井町・平田町を中心に東部地区を走る「とがみくるりんバス」と神ノ郷町を中心に西部地区を走る「みかんの丘くるりんバス」の2路線が運行しています。

コミュニティバスの運行開始時には、地区の実情を十分に反映した計画とするため、地元の協議組織である「地区公共交通協議会」を立ち上げ、地区の皆様で運行計画案をご検討いただいています。またコミュニティバスの運行開始後も皆様に便利に利用していただくため、地区の状況に合わせて、バス停設置場所や運行ルートの見直しを行っています。みかんの丘くるりんバスにおいても、今年1月より坂本地区まで運行するようになりました。

以下に地区内を走る2路線の運行ルートを掲載しましたので、検討の参考としてください。



- このワークショップでは、既存の保育園、小中学校、公民館の施設を対象としたハード面にウエイトがおかれているように思いますが、ソフト面に踏み込まれるのでしょうか？

このワークショップでいただいた意見をもとに、蒲郡北地区（中部中学校区）の地区個別計画を策定します。計画には、施設配置だけでなく、施設の利用方法やセキュリティ面への配慮などソフト面においても、ワークショップ内でいただいた意見をもとに計画に記載していく予定です。

- 「将来負担の縮減」とありますが、この中に再配置（構築）コストの視点は含まれているのでしょうか？

ご質問いただいたとおり、次回ご検討いただくプランの比較の段階では、「⑦将来負担の軽減」として、各プランのライフサイクルコスト（建設に係る初期費用に加え、改修・修繕や光熱水費など施設の維持管理に係る費用を合わせたもの）をもとにしたコスト比較を行う予定です。ライフサイクルコストの試算にあたっては、今後50年間で必要となる建替え・改築費・改修費・修繕費といった費用をプラン毎に算出します。

その他アンケートにてご意見いただいた保育園の送り迎えの視点や DX の視点等については、p.24「蒲郡北地区の課題と課題解決に向けた方策」の中に盛り込んでおります。

蒲郡北地区の課題と課題解決に向けた方策

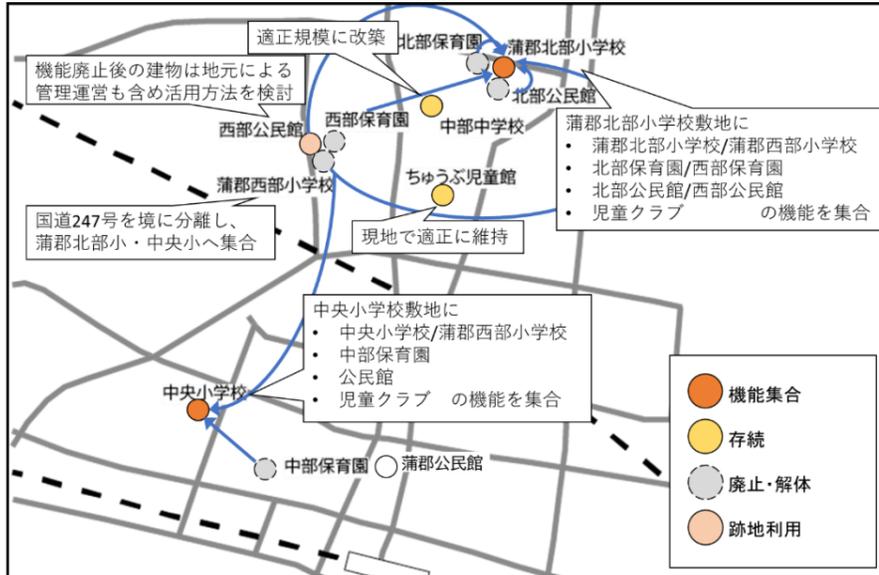
視点の整理		課題解決に向けた方策		
視点	WSでいただいたご意見要約、地区の課題	施設の再配置を通じた解決策としていただいたご意見	再配置を通じた解決策	運営の工夫による解決策としていただいたご意見
① 地域での活動・交流のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> 施設の複合化で世代間の交流、地域の活性化につなげられないか。 学区と自治会の不整合がある。 外国人の交流の場という視点も必要ではないか。 見守り活動などを通じて、年配の人の活躍の場が生まれ、世代間の交流にもつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多機能化や複合化によって利便性が向上し、多世代で交流できる場となれば、地域の活性化にもつながる。 中央小学校区は蒲郡公民館を利用している。体育センターに公民館を併設してほしい。 コミュニティの基本は祭りのつながりであり、施設配置の際にはその点を配慮してほしい。 北部地区は区画整理が進んで近年子どもも増えている。北部地区から公共施設をなくすことは考えにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 多様な方々の交流の場の創出 ② 地域での活動がしやすい施設配置 	<ul style="list-style-type: none"> 学区と行政区に不整合がある。地区の行事は学区でまとまると良い。 子どもと市民団体が共に活動する場所を検討できると良い。 公民館は若い人が使いやすい環境づくりや利用のPRを行い、利用促進を図りたい。
② 学校教育環境のあり方	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数などの観点から再編は妥当。 小規模学級のメリット・デメリットを考慮する必要がある。 人口が少ないと学校役員など住民の負担も大きい。一方、みんなで行っていいという考えも大事である。 再編する場合、児童数だけでなく地域性や安全性、利便性など総合的に考えるべき。 小中一貫校の導入を検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校については全市的な方針・視点で配置案を考えた方がよいのではないかと。 3つの小学校を統廃合せずに、各小学校に公民館や保育園、児童館を集約していく案も考えられる。 児童数等を考慮すると、小学校を3校から2校へ再編するのが妥当だ。 西部小学校区は人口が少なく、再編すれば負担の平準化や効率化を図ることができる。 学校を減らしてでも、子どもたちに手厚い支援をしたい。 小中一貫校を導入して中部中学校と小学校3校を一緒にする案も考えてはどうか。児童生徒数が多い方が教育環境として望ましいし、効率の良い施設配置ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ③ 小学校の再編 ④ 小学校と中学校の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校を統合する場合は小学生の通学手段を確保する。 少人数でのんびりした学校があっても良いのではないかと。 少人数学校を希望する方のために学区の垣根を越えて越境通学を認めるような制度の見直しが必要ではないか。 小中一貫校にすれば、小学校で教科担任制への移行もしやすくなる。
③ 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 子育て関連施設は近くにあったほうが便利で安心である。 保育園を統合して効率化し、延長保育などサービスを向上してほしい。 児童クラブは学校内でできないか。 小学校の部活動がなくなると児童クラブや児童館のニーズは高まる。 保育園利用者から駐車場が少なくて困るという話をよく聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園は統合によって効率化し、延長保育や未満児保育などのサービスを向上してほしい。 西部保育園は西部小学校と一体化したほうが便利である。 小学校の敷地内や学校に近い北部公民館や西部公民館に児童クラブの機能があると良い。 ちゅうぶ児童館は公園に隣接しており利用しやすいので残してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑤ 子育て関連機能の集合 ⑥ 小学校内への児童クラブの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢によって子どもの遊び方が違う。年代ごとに分かれて遊ぶことができるスペースがあると良い。
④ 高齢者の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化が進んでおり、日常的に交流できるようにしたい。 元気な高齢者の居場所が近くに欲しい。 目的はなくても気軽に立ち寄れる場所が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的はなくても気軽に立ち寄れる場所が必要ではないか。 元気な方の居場所として、遊んだりお話ができる施設が近くに欲しい。 高齢者向けの施設は歩いて通えるところに配置することで利用しやすくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 高齢者が活動できる場の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に交流ができるよう、ソフト面での対応などで高齢者が住みよいまちをしたい。 地域の年配の人が子どもの通学などを見守ることで活躍の場が生まれ、高齢者と子ども達の交流につながる。 近所付き合いもなくおとなしい人も多いので、交流できる機会がたくさんあると良い。
⑤ 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> 防災や交通安全を考えた施設配置を考えるべき。 今後の道路開通見込みなどを踏まえ、交通の変化を想定して施設配置を考える必要がある。 障がい者などの災害避難対策の配慮が必要。 災害が増えているので避難のできるしっかりした場所が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 中央小学校は標高が低く、避難場所としては疑問がある。 避難施設など防災面も考慮した上で、公共施設の配置を計画するべきである。 通学路の安全を考慮した計画にするべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ 自然災害からの安全確保 ⑨ 避難所・避難場所の適正配置 ⑩ 交通安全に配慮した施設配置 	<ul style="list-style-type: none"> 247号の開通で交通量が増えて危険な状態であるため、道路整備や防犯カメラの設置、交通規制などの対策が必要ではないか。
⑥ 利便性の確保	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスの整備が必要。 子どもや高齢者が使う施設は徒歩圏内に施設があると良い。 車でアクセスしやすいよう施設周辺の道路整備が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者や子どもは徒歩での移動が多いため、こうした人が利用する施設は徒歩圏内に配置を検討すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑪ 徒歩でアクセスしやすい施設配置 	<ul style="list-style-type: none"> 学校周辺の道路環境があまり良くない。学校周辺の道路整備が望まれる。 コミュニティバスなど、公共施設へのアクセスの確保は必須である。
⑦ 将来負担の縮減	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少に伴い施設を減らす必要がある。 効率化して新たなサービスを充実させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今ある施設を有効に活用し、余った施設は廃止すべきである。 小学校を再編すれば学校跡地の有効活用もできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ⑫ 施設総量の縮減 	
⑧ 運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> 施設の有効利用を考えるべき。 利用しやすい工夫が必要である。 施設の利用率を上げるには情報発信が重要。 地域集会施設のような小規模な施設の運営がヒントになるのではないかと。 DX（デジタル化）に伴い、施設のあり方も変わってくる。 			<ul style="list-style-type: none"> 民間に有料で貸し出したらどうか。 施設の利用率を上げるには情報発信が重要である。 公民館の調理室の利用促進のため、飲食業を巻き込んだイベントなどで利用してはどうか。

A

通学の安全を確保し、
学校規模の適正化を図るプラン

【重点を置いた解決策】③⑩

- 蒲郡西部小学校は国道 247 号を境に分離し、蒲郡北部小学校・中央小学校と集合します。
- 蒲郡北部小学校敷地に蒲郡北部小学校、蒲郡西部小学校、北部保育園、西部保育園、北部公民館、西部公民館、児童クラブの機能を集め、北部地区・西部地区の新たな拠点を整備します。
- 中央小学校敷地に中央小学校、蒲郡西部小学校、中部保育園、公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校は適正規模に改築します。
- 西部公民館建物は地元による管理運営も含め活用方法を検討します。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	○西部小学校の規模適正化に寄与する ×推奨案とは異なり、北部小敷地に小学校が整備される
公民館	○北部/西部地区の公民館が整理される ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	○地区内の保育園が2園に整理され、集団保育を保證できる園児数を確保することができる

特徴/課題

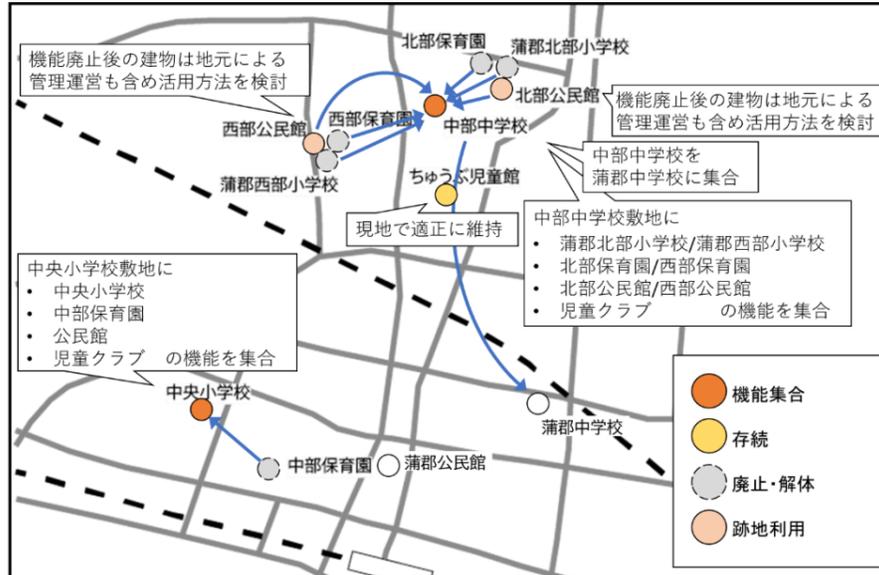
- 交通量の多い国道 247 号を渡ることなく、子ども達が通学できる
- 西部地域の施設が他地区に移ってしまうため、アクセス面での利便性が低下する

B

北部地区と西部地区の
新たな交流拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】①⑤

- 中部中学校は蒲郡中学校と集合します。
- 中部中学校敷地に蒲郡北部小学校、蒲郡西部小学校、北部保育園、西部保育園、北部公民館、西部公民館、児童クラブの機能を集め、北部地区・西部地区の新たな拠点を整備します。
- 中央小学校敷地に中央小学校、中部保育園、公民館、児童クラブの機能を集め、中央小学校区の拠点を整備します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適正に維持していきます。
- 北部公民館、西部公民館建物は地元による管理運営も含め活用方法を検討します。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	○北部小/西部小が集合し、中部中敷地に整備される ×中部中が蒲郡中と集合することで、蒲郡中が大規模校となる
公民館	○北部/西部地区の公民館が整理される ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	○地区内の保育園が2園に整理され、集団保育を保證できる園児数を確保することができる

特徴/課題

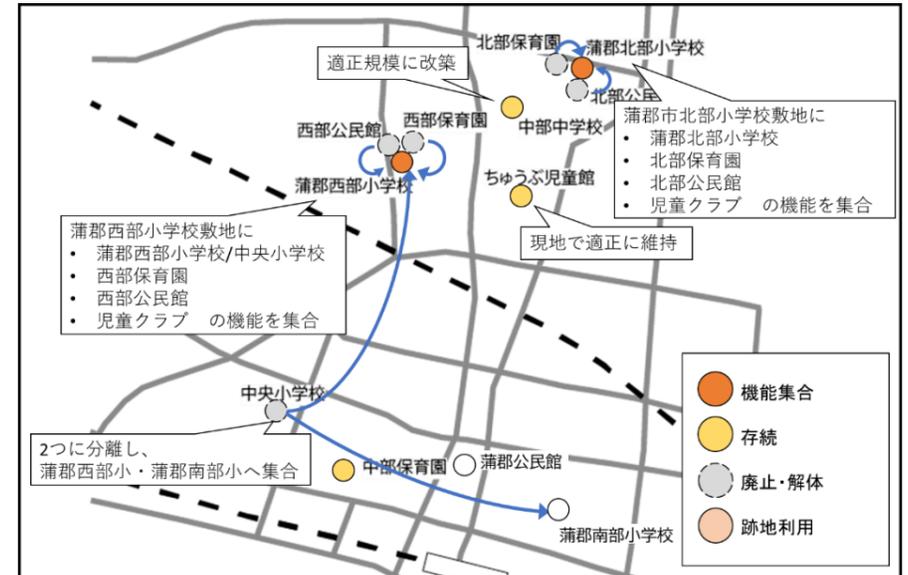
- 西部地区/北部地区の中心である中部中学校敷地に機能が集合し、両地区合同の新たな拠点が整備される
- 中央小学校の敷地に小学校・保育園・児童クラブに加え、公民館機能を集合させることで、中央小学校区の拠点が整備される

C

地域の交流拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】①②

- 中央小学校を2つに分離し、蒲郡西部小学校・蒲郡南部小学校と集合します。
- 蒲郡北部小学校敷地に蒲郡北部小学校、北部保育園、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 蒲郡西部小学校敷地に蒲郡西部小学校、中央小学校、西部保育園、西部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校、中部保育園は適正規模に改築します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適切に維持していきます。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	×西部小学校の学校規模が改善しない ×標準規模に位置する中央小学校が分割される
公民館	×北部地区/西部地区の公民館が2館残る ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	×地区内の保育園が整理されず、3園残る

特徴/課題

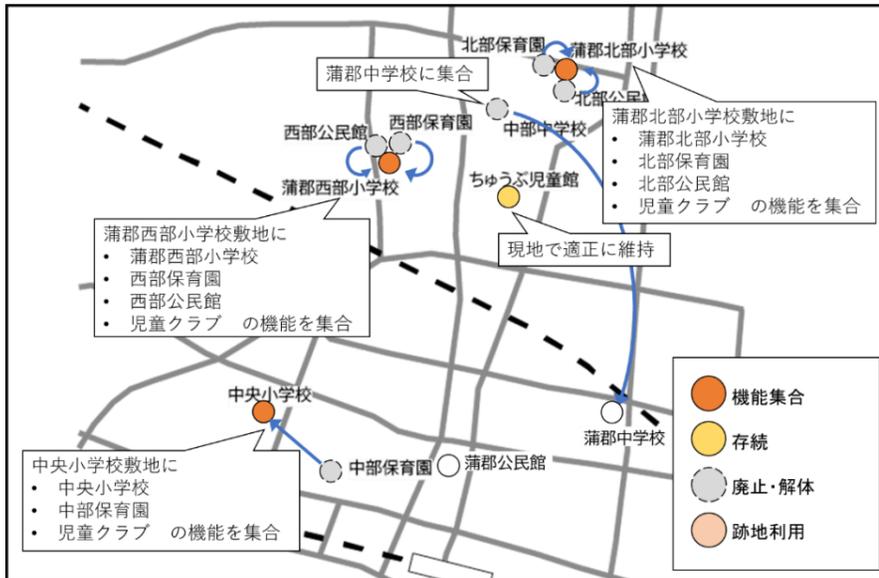
- 小学校・保育園・公民館が集合することで地域の交流拠点を整備することができる
- 中央小学校の集合により、公民館と小学校の活動範囲が同じになり、地域と子ども達の活動の連携を図りやすくなる

D

地域性を維持し、各地に子育ての拠点をつくるプラン

【重点を置いた解決策】②⑤

- 蒲郡北部小学校敷地に蒲郡北部小学校、北部保育園、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 蒲郡西部小学校敷地に蒲郡西部小学校、西部保育園、西部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中央小学校敷地に中央小学校、中部保育園、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校は蒲郡中学校と集合します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適正に維持していきます。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	×西部小学校の学校規模が改善しない ×中部中が蒲郡中と集合することで、蒲郡中が大規模校となる
公民館	×北部地区/西部地区の公民館が2館残る ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	×地区内の保育園が整理されず、3園残る

特徴/課題

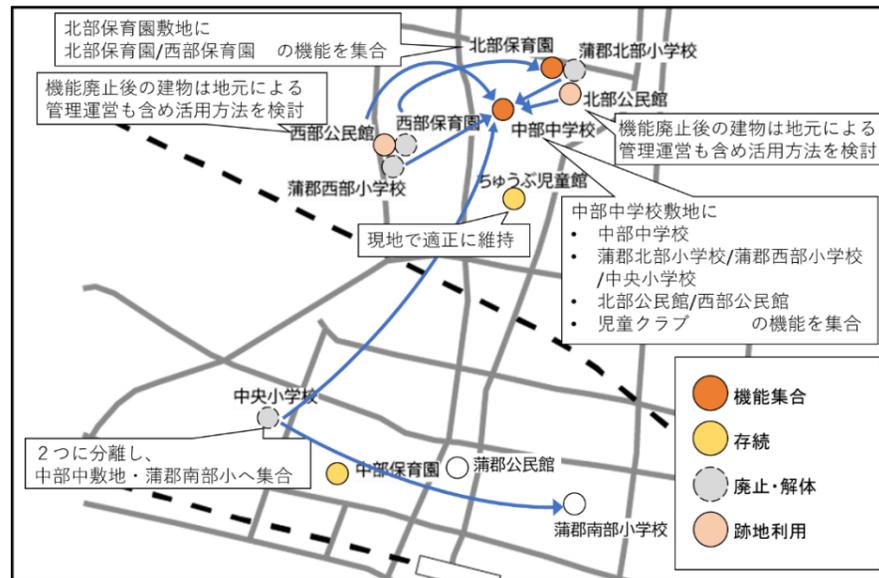
- 既存の小校区単位での整備がされるため、地区と小学校の繋がりが維持される
- 小学校を全て維持するため、将来の費用負担が大きい

E

充実した教育の拠点と世代間交流の場をつくるプラン

【重点を置いた解決策】③④

- 中央小学校を2つに分離し、蒲郡北部小学校/蒲郡西部小学校・蒲郡南部小学校と集合します。
- 中部中学校敷地に中部中学校、蒲郡北部小学校、蒲郡西部小学校、中央小学校、北部公民館、西部公民館、児童クラブ機能を集めます。
- 北部保育園敷地に北部保育園、西部保育園の機能を集めます。
- 中部保育園は適正規模に改築します。
- ちゅうぶ児童館は現地で適正に維持していきます。
- 北部公民館、西部公民館建物は地元による管理運営も含め活用方法を検討します。



小中学校規模適正化方針/グランドデザインとの関係性

学校	○北部小/西部小/中部中が集合し、中部中敷地に整備される ×標準規模に位置する中央小学校が分割される
公民館	○北部/西部地区の公民館が整理される ○公民館と小学校が集合し、地域と学校が連携・交流しやすい施設の整備に寄与する
保育園	○地区内の保育園が2園に整理され、集団保育を保證できる園児数を確保することができる

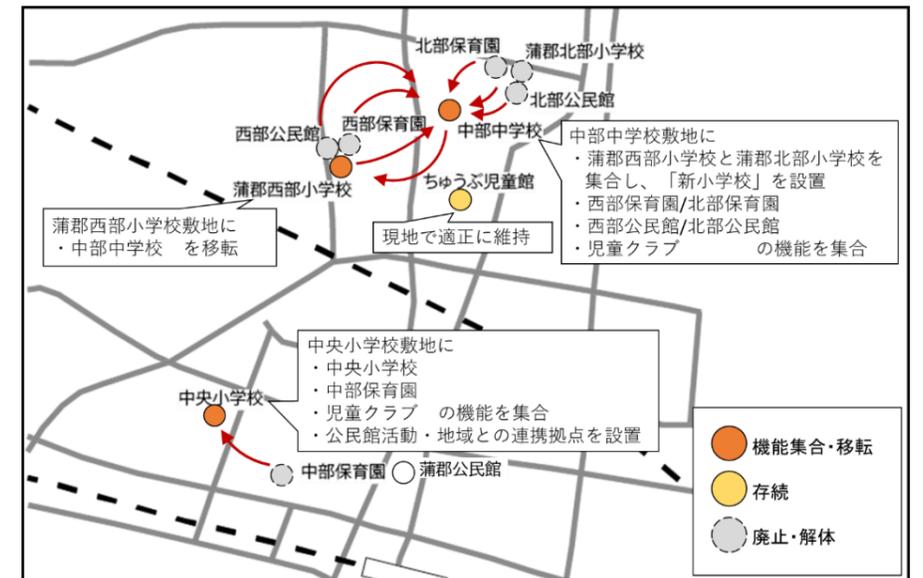
特徴/課題

- 中部中敷地にて小学校と中学校が集合することで、充実した教育の拠点が整備される
- 小学校と保育園が離れるため、子ども達のお迎えに手間がかかる

F

小中学校規模適正化方針 A プランとグランドデザインをもとに作成したプラン

- 中部中学校敷地に蒲郡西部小学校・蒲郡北部小学校を合わせた「新しい小学校」を設置します。
- さらに中部中学校敷地に西部保育園、北部保育園、西部公民館、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中部中学校は蒲郡西部小学校敷地に移転し、中学校において「地域に根ざした学校」づくりを行います。
- 中央小学校敷地に中央小学校、中部保育園、児童クラブの機能を集め、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。

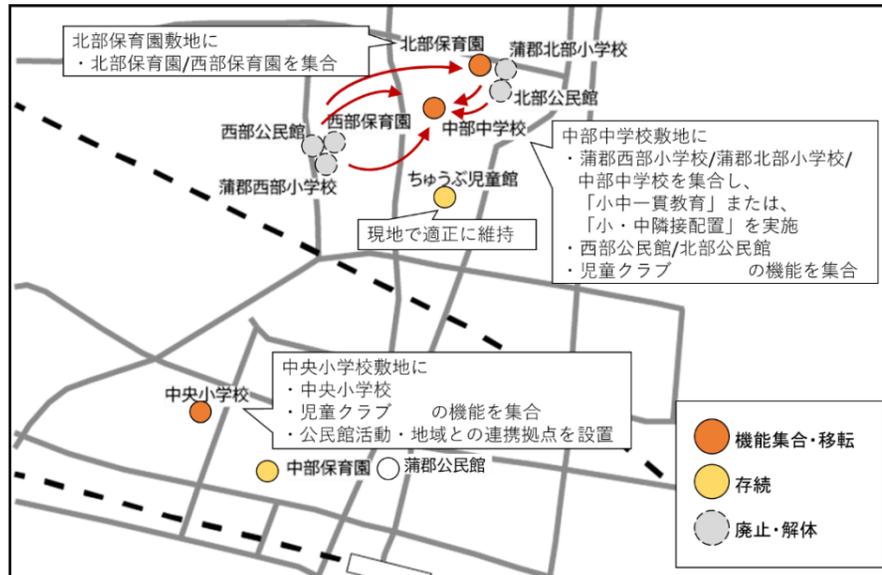


プラン作成の考え方

学校	●西部小学校と北部小学校を集合し、中部中学校敷地に「新しい小学校」を設置 ●中部中学校を西部小敷地へ移転し、「地域に根ざした学校」づくりを推進
公民館	概要版「6 公民館の配置について」より ●蒲郡北地区は1館が相当 ●可能な場合、小学校との複合化を検討(複合化しない場合、校内に公民館活動や地域との連携ができる場所の設置検討) ⇒ ●「新しい小学校」と西部公民館/北部公民館を集合 ●中央小学校内に連携拠点を設置
保育園	●地区内の保育園を3園から2園に集約 ●配置として考えられる「他施設と集合する場合」と「単独で建替える場合」の2パターンのうち、前者でプランを作成

小中学校規模適正化方針 B プランと ランドデザインをもとに作成したプラン

- 中部中学校敷地に蒲郡西部小学校・蒲郡北部小学校・中部中学校を集合し、「小中一貫教育の導入」もしくは「小中学校の隣接配置」を実施します。
- さらに中部中学校敷地に西部公民館、北部公民館、児童クラブの機能を集めます。
- 中央小学校敷地に中央小学校、児童クラブの機能を集め、校内に公民館活動・地域との連携拠点を設置します。
- 北部保育園敷地に西部保育園、北部保育園の機能を集めます。



プラン作成の考え方

学校	● 中部中学校の敷地に西部小学校/北部小学校を集合させ、中部中学校との「小中一貫教育の導入」「小中学校を隣接配置」
公民館	概要版「6 公民館の配置について」より ● 蒲郡北地区は1館が相当 ● 可能な場合、小学校との複合化を検討(複合化しない場合、校内に公民館活動や地域との連携ができる場所の設置検討) ⇒ ● 西部小学校/北部小学校と西部公民館/北部公民館を集合 ● 中央小学校内に連携拠点を設置
保育園	● 地区内の保育園を3園から2園に集約 ● 配置として考えられる「他施設と集合する場合」と「単独で建替える場合」の2パターンのうち、後者でプランを作成 ● 3保育園のうち市有地に立地する北部保育園、中部保育園敷地にて再編をするものとして作成

(参考) 小中学校規模適正化方針/ランドデザインの考え方について

〈小中学校規模適正化方針〉

【標準規模・標準配置】

	標準規模	標準配置	
		通学距離	通学時間
小学校	12~18 学級	概ね 4 km	1 時間以内
中学校	9~18 学級	概ね 6 km	1 時間以内

→市の標準規模を下回る規模の学校は適正化に向けた検討を行う

【地区内の適正化検討対象校とその対応策】

○蒲郡西部小学校

〔現状〕 普通学級数：6学級 児童数：61人

〔推計(2040)〕 普通学級数：6学級 児童数：62人

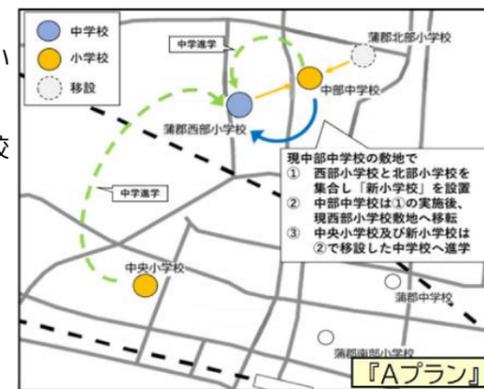
→方針：近隣の学校も含めた「新しい学校教育体制の構築」

西部小学校は蒲郡市の小学校の中で最も小規模校であり、現状でも10人未満の学年もあるため、教育活動や行事等での制約が大きく、多様性の向上を育む教育を行うことが容易でないなどの教育上の課題も多いため、以下の手法で適正な規模に是正していきます。

〈Aプラン〉

- 現中部中敷地に西部小・北部小を合わせた「新しい小学校」を設置し、標準規模の小学校での教育活動を実施
- 中部中を現西部小敷地へ移設し、中学校において「地域に根ざした学校」づくりを推進

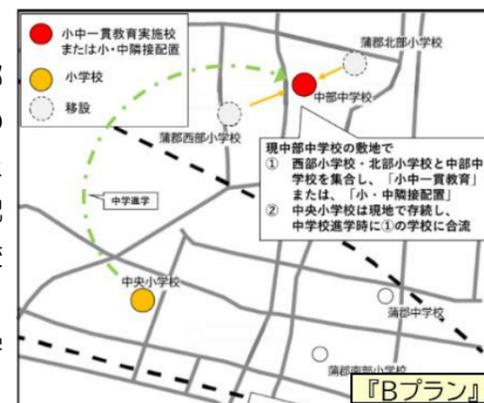
【課題】 現西部小敷地の面積が狭いため、敷地の拡大が必要。



〈Bプラン〉

- 現中部中敷地に西部小・北部小を集合させ、中部中との「小中一貫教育の導入」または「小学校・中学校を隣接配置」することで、小・中学校の連携協力体制を構築
- 中央小は現地で存続し、中学校進学時から合流

【課題】 小中一貫教育導入の場合、中央小児童は中学進学時から合流するため、本来9年間を見通した系統的な教育による様々な効果が得られない可能性がある。



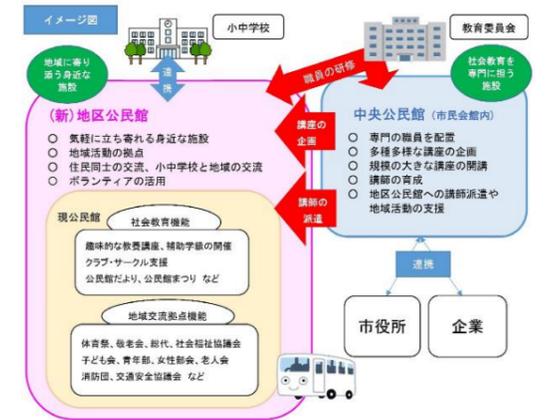
〈公民館ランドデザイン〉

【目指すべき公民館の姿】

公民館の機能を2つに分け、それぞれの機能を十分に発揮させます。

- ① 社会教育機能(学習機能)を果たす「中央公民館」
- ② 地域交流拠点機能(地域と人のつながり)を果たす「地区公民館」

※ 地区公民館建替えの際は可能な限り小学校との複合化を検討する。



【各地区の公民館の配置に関する考え方】

蒲郡北地区(北部・西部公民館)

人口規模が小さく、中部中学校を中心に施設が比較的近い距離に配置されて一定の範囲にまとまっているため、地区内に1館が相当。

ただし、中央小学区は蒲郡公民館を利用しているため、蒲郡南地区で検討します。

蒲郡南地区(蒲郡・小江・府相・東部公民館)

地区内に3館が相当。ただし、公民館が小学校と複合化しない場合は、校内に公民館活動や地域連携ができる場所の設置を検討します。

〈保育園ランドデザイン〉

【基本的な考え方】

- 各地区、各保育園で統一した保育サービス(低年齢児保育・延長保育)を実施できるよう適正配置について検討します。
- 基準とする規模は、一人一人のきめ細やかな保育を実現しつつ、健全な成長・育ちの観点から集団保育を保證できる保育園の規模(概ね80~130人程度)とします。

【中部中学校区における考え方】

○ 将来ニーズの予想

	0-5歳児計
2040年時点中学校区内保育園等入所数予想(①+②)	265
2040年時点中学校区内居住児童の入所ニーズ予想①	310
2040年時点他中学校区の民間園への入所予想②	▲45

○ 今後のあり方

● 現在の公立保育園を3園から2園に集約します。2040年時点の中学校区内保育園等入所数予想は265人であり、2園に集約する場合1園あたり132人となり、概ね基準とする規模となります。

(参考) 各プランにおける児童・生徒数の見込み

プランA

	2021年		10年後の見込み			20年後の見込み		
	人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数
蒲北小+蒲西小(一部)	346	12(2)	295	49.2	12(2)	275	45.8	12(2)
中央小+蒲西小(一部)	307	12(2)	277	46.1	12(2)	241	40.2	12(2)
中部中	366	11 (3~4)	319	106.3	12(4)	278	92.7	9(3)

※ 蒲西小は国道247号を境に蒲北小(北側)と中央小(南側)に分離した人数。

※ 中部中は2021年時点で1年生のみ3クラスとなっています。

プランB

	2021年		10年後の見込み			20年後の見込み		
	人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数
蒲北小+蒲西小	356	14 (2~3)	307	51.2	12(2)	286	47.7	12(2)
中央小	297	12(2)	265	44.2	12(2)	230	38.3	12(2)
中部中+蒲郡中	809	27(9)	794	264.7	24(8)	676	225.3	21(7)

※ 蒲北小と蒲西小を集合した場合、2021年は5・6年生が3クラスとなる見込みです。

プランC

	2021年		10年後の見込み			20年後の見込み		
	人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数
蒲北小	300	12(2)	241	40.2	12(2)	224	37.3	12(2)
蒲西小+中央小(一部)	80	6(1)	87	14.6	6(1)	81	13.4	6(1)
蒲南小+中央小(一部)	636	20 (3~4)	560	93.3	18(3)	485	80.9	18(3)
中部中(一部)	228	7 (2~3)	199	66.2	6(2)	173	57.7	6(2)

※ 中央小のうち神ノ郷町(下向山地区)を蒲西小、その他は蒲南小とした人数。

※ 現中央小のうち蒲南小に統合する地区は蒲郡中へ進学するとした人数。

※ 蒲南小と中央小を集合した場合、2021年は1・3年生が4クラスとなる見込みです。中学校については一部を蒲郡中へと集合した場合、中部中へ通学する人数は2021年は1・3年生が2クラスとなる見込みです。

プランD

	2021年		10年後の見込み			20年後の見込み		
	人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数
蒲北小	300	12(2)	241	40.2	12(2)	224	37.3	12(2)
蒲西小	56	6(1)	66	11.0	6(1)	62	10.3	6(1)
中央小	297	12(2)	265	44.2	12(2)	230	38.3	12(2)
中部中+蒲郡中	809	27(9)	794	264.7	24(8)	676	225.3	21(7)

プランE

	2021年		10年後の見込み			20年後の見込み		
	人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数
蒲北小+蒲西小+中央小(一部)	380	12(2)	328	54.7	12(2)	305	50.8	12(2)
蒲南小+中央小(一部)	636	20 (3~4)	560	93.3	18(3)	485	80.9	18(3)
中部中(一部)	228	7 (2~3)	199	66.2	6(2)	173	57.7	6(2)

※ 中央小のうち神ノ郷町(下向山地区)を蒲北小+蒲西小、その他は蒲南小とした人数。

※ 現中央小のうち蒲南小に統合する地区は蒲郡中へ進学するとした人数。

※ 中部中学校の一部を蒲郡中へと集合した場合、中部中へ通学する人数は2021年は1・3年生が2クラスとなる見込みです。

プランF/プランG

	2021年		10年後の見込み			20年後の見込み		
	人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数	人数	学年当り人数	学級数
北部小+西部小	356	14 (2~3)	307	51.2	12(2)	286	47.7	12(2)
中央小	297	12(2)	265	44.2	12(2)	230	38.3	12(2)
中部中	366	11 (3~4)	319	106.3	12(4)	278	92.7	9(3)

※ 北部小と西部小を集合した場合、2021年は5・6年生が3クラスとなる見込みです。また、中部中は2021年時点で1年生のみ3クラスとなっています。

<表の見方>

- 2021年の数値は、令和3年4月1日時点のデータをもとに記載しています。
- 見込み数は小中学校規模適正化方針の学校別の児童生徒数の見通しをもとに算出しています。なお、既存の学校を分割して他の学校と集合する場合は、現在の児童生徒数の居住地割合を各校の将来見込み数に掛けています。
- 学級数のカッコ書きは1学年あたりの学級数を示しています。
(算出方法)
1学級あたりの人数の上限は35人としており、1学年あたりの人数が35人以下は1学年1学級(小学校6学級・中学校3学級)、36~70人は1学年2学級(小学校12学級、中学校6学級)、71~105人は1学年3学級(小学校18学級、中学校9学級)と計算しています。
- 市が定める標準規模(小学校:12~18学級、中学校:9~18学級)を下回るケースは赤色で、上回るケースは青色で塗っています。

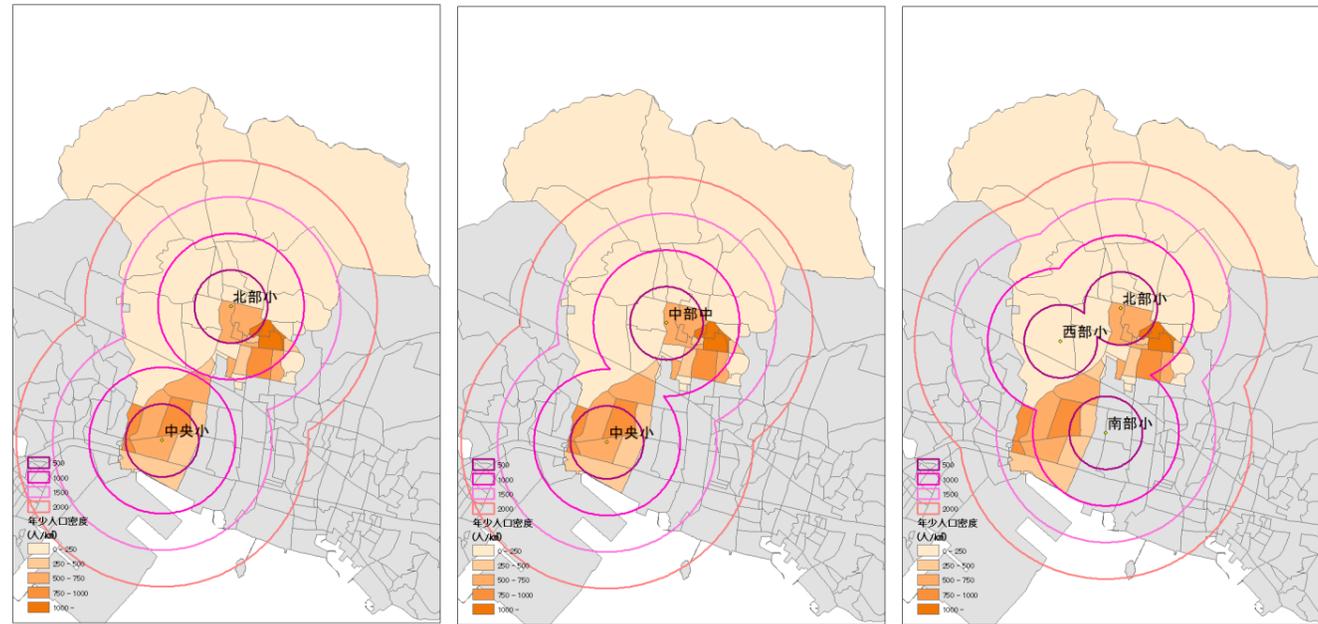
(参考) 各プランにおける通学距離について

蒲郡北地区内のどの地域に子ども達が居住しているのか、またおおよそどれくらいの距離を
通学しているのかを分かりやすくするため、地区内の年少人口(14歳以下)の人口密度を
示した地図に各学校を中心とした円を表しました。

各プランにおける子ども達の通学について考える際の参考にしてください。

○ 小学校について

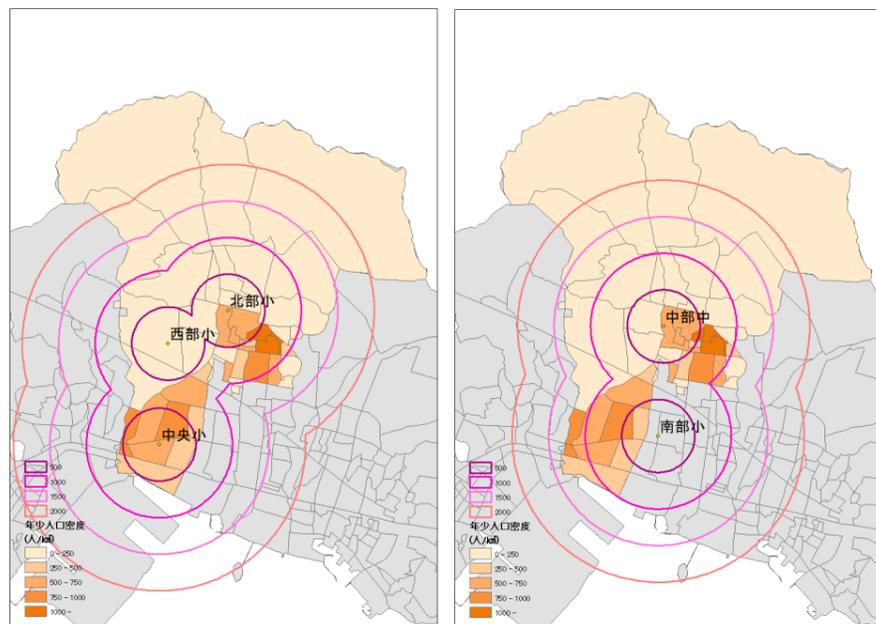
(半径 0.5 km・1.0 km・1.5 km・2.0 km)



A 案

B 案/F 案/G 案

C 案

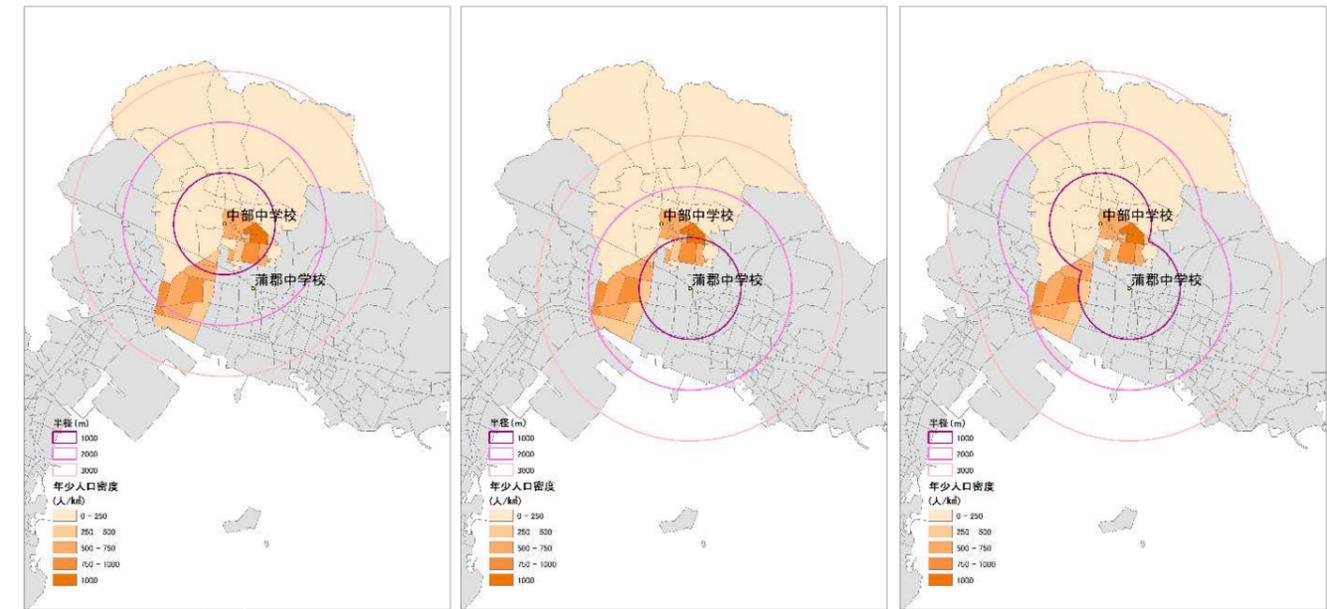


D 案

E 案

○ 中学校について

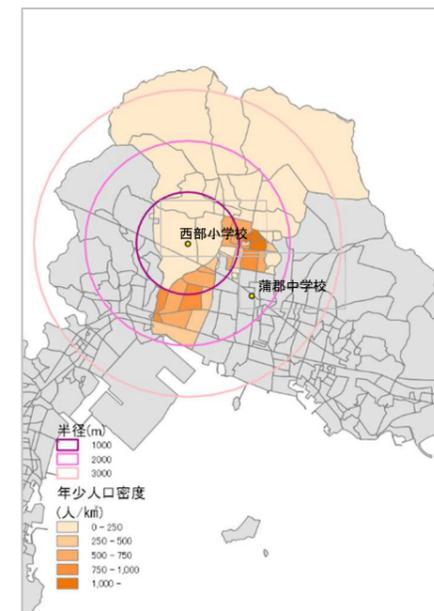
(半径 1.0 km・2.0 km・3.0 km)



A 案/G 案

B 案/D 案

C 案/E 案



F 案

- ピンク色の円については、小学校は学校から 0.5km・1.0km・1.5km・2.0km、中学校は学校から 1.0km・2.0 km・3.0 kmの距離を示しています。
(国の基準では、小学校は 4km 以内、中学校は 6km 以内がおおよその通学距離の目安とされています。)
- 地図上の色は、年少人口の人口密度を示しています。色が濃い場所ほど、年少人口が多いことを示しています。

評価の視点

- 今までのワークショップでいただいたご意見をもとに、再配置プランを検討していくための8つの視点を取りまとめました。今後、複数の再配置プラン案を比較する際の評価の視点として活用していきます。

視 点	内 容
① 地域での活動・交流のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> ● 世代間の交流が活性化する施設配置となっているか。 ● 若い世代や外国人も集まれる場所は整備されているか。 ● 地域での活動が行いやすい施設配置となっているか。
② 学校教育環境のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な学校規模が維持されているか。 ● 学校周辺の環境は適切か。 ● 地域性に応じた学校の配置になっているか。
③ 子育てしやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てしやすい施設配置となっているか。 ● 児童クラブは適切な場所で実施できているか。
④ 高齢者の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者の居場所は整備されているか。 ● 高齢者が他世代と関わりを持ちやすい施設配置となっているか。
⑤ 安全・安心	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通安全に配慮した施設配置となっているか。 ● 災害に強い施設配置となっているか。 ● 避難所としての施設配置は適切か。
⑥ 利便性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 近接した場所で多様な活動が行えるような施設配置となっているか。 ● アクセスしやすい施設配置となっているか。
⑦ 将来負担の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ● 維持更新費用・運営費用は縮減されているか。
⑧ 運営の改善	<ul style="list-style-type: none"> ● なし ※ 再配置を実施後に配慮しなければいけない事項（付帯事項）として整理します。

本日の検討内容

- ① オリエンテーションにて各施設の今後の方針である、小中学校規模適正化方針、公民館・保育園のランドデザインについて説明しました。

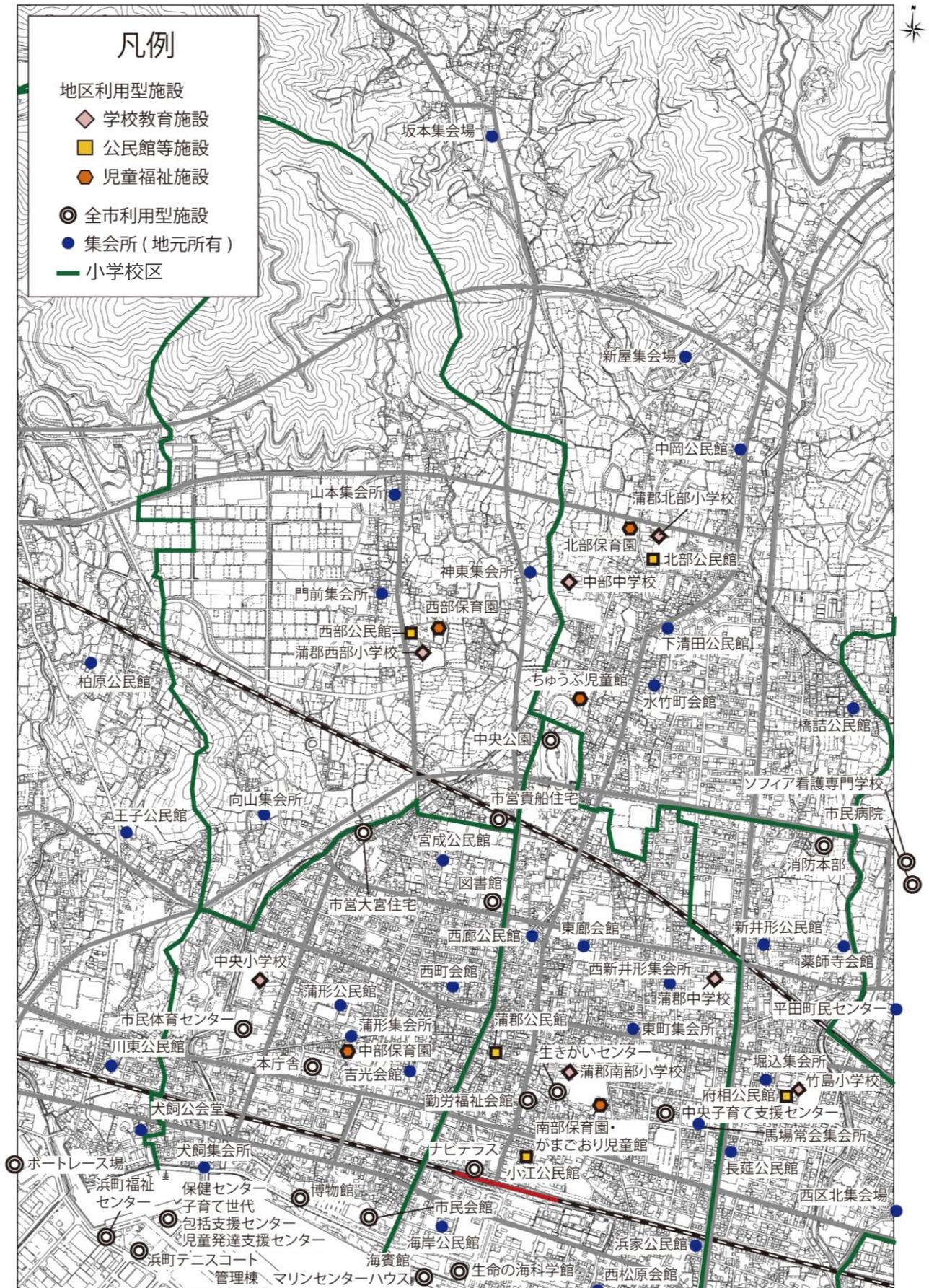
これらの方針を踏まえて、再配置プラン案について確認したいこと、期待できること、不安なことはありますか。また、各々の案についてさらに良くするためのご意見はありますか。

- ② 今後これらの再配置プラン案を評価していきますが、その評価の指標として、皆様のご意見に基づく8つの視点を活用していきます。

それぞれの視点の内容について、気になることやご意見はありますか。

蒲郡北地区（中部中学校区）の公共施設の概要

【公共施設配置図】



【地区利用型施設一覧】

施設用途	施設名称	延床面積 (㎡)	建築年度	老朽化度	避難所指定			災害の危険区域等				市の支出				市の収入 (千円)	市の負担額 (千円)	面積あたり市負担額 (円/㎡)	利用者数			平均園児・児童・生徒数 (人)	貸部屋等利用率 (%)	ハード評価 (偏差値)	ソフト評価 (偏差値)
					指定避難所	指定緊急避難場所	地域避難場所	想定震度	津波浸水	高潮浸水	土砂災害	施設に係るコスト (千円)	事業運営に係るコスト (千円)	人に係るコスト (千円)	指定管理料 (千円)				6年平均 (人)	1日あたり平均 (人/日)	面積あたり1日あたり平均 (人/㎡・日)				
小学校	蒲郡北部小学校	4,854	S27	2.7	○	○		6弱	-	-	-	30,361	8,540	3,333	0	90	42,144	8,682	-	-	-	314	-	45.3	48.2
	蒲郡西部小学校	3,756	S27	2.6	○	○		6弱	-	-	-	30,059	7,692	2,700	0	90	40,361	10,745	-	-	-	71	-	46.3	49.1
	中央小学校	6,409	S41	2.6	○	○		6弱	-	-	-	32,468	8,596	2,700	0	517	43,248	6,748	-	-	-	310	-	46.2	50.5
中学校	中部中学校	7,640	S52	2.9	○	○		6弱	-	-	-	30,792	9,241	2,700	0	90	42,643	5,581	-	-	-	347	-	47.2	50.4
保育園	北部保育園	1,140	S54	3.2	○			6弱	-	-	-	5,803	24,089	88,167	0	24,708	93,351	81,897	-	-	-	117	-	45.4	49.6
	西部保育園	660	S52	2.7	○			6弱	-	-	-	5,637	15,189	46,833	0	7,732	59,928	90,853	-	-	-	46	-	48.0	42.9
	中部保育園	1,308	S51	2.8	○			6弱	-	-	-	5,418	31,326	107,850	0	30,315	114,279	87,378	-	-	-	138	-	47.3	48.7
児童館	ちゅうぶ児童館	569	H17	2.1				6弱	-	-	-	2,733	4,408	3,600	0	0	10,741	18,886	31,096	108.7	0.191	-	-	62.5	61.4
公民館	北部公民館	551	S52	3.0			○	6弱	-	-	-	1,123	0	0	5,373	1	6,495	11,794	30,430	101.8	0.185	-	18.5	46.8	56.0
	西部公民館	418	S50	3.2			○	6弱	-	-	-	1,582	0	0	4,998	0	6,580	15,757	9,808	32.6	0.078	-	24.6	44.8	38.3

出典：令和2年度 蒲郡市公共施設白書

※ 複数の建物で構成されている施設の築年数は、最も建築年の古い建物をもとに掲載しています。

※ 「災害の危険区域等」における「想定震度」は「愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査」（平成26年3月発表）に基づく被害想定を記載しています。

※ 「津波浸水」は愛知県指定による津波災害警戒区域における浸水深（単位：m）、「高潮浸水」は高潮浸水想定（平成26年11月発表）における浸水深（単位：m）、「土砂災害」は愛知県指定による土砂災害警戒区域と土砂災害特別警戒区域を示しています。（いずれも蒲郡北地区内の地区利用型施設は指定されていません。）

※ 市の支出・収入・負担額及び利用状況の値は6カ年度（平成26年度～令和元年度）の平均値を掲載しています。

※ 避難所の種類について

指定避難所 …被災者が避難生活をするための場所。主に小中学校の体育館がこれにあたり、地震などの大規模災害時に開設します。

指定緊急避難場所…地震など災害の危険から命を守るため、一時的に避難する場所。学校の校庭や公園などが指定されています。

地域避難場所 …台風などの風水害の際、少人数の方が一時的に避難するために開設する場所。公民館や児童館などが指定されています。

【各施設の概要】

施設名称	概況（特徴・課題等）
<p>蒲郡北部 小学校</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最も古い建物は昭和 27 年度に建設されている。 ・ 児童数 300 人（R3.5.1 時点） ・ 普通学級数 12（全学年 2 クラス）、特別支援学級数 3。 ・ 校内に放課後児童クラブが設置されており、1～2 年生（37 人）が利用している。3 年生以上（26 人）についてはちゅうぶ児童館にて実施。（R3.5.1 時点） ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。
<p>蒲郡西部 小学校</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最も古い建物は昭和 27 年度に建設されている。 ・ 児童数 55 人（R3.5.1 時点） ・ 普通学級数 6（全学年 1 クラス）、特別支援学級数 2。 ・ 校内に放課後児童クラブが設置されており、1～6 年生（13 人）が利用している。（R3.5.1 時点） ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。

施設名称	概況（特徴・課題等）
中央小学校	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最も古い建物は昭和 41 年度に建設されている。 ・ 児童数の増加に伴い、昭和 44 年度開校。 ・ 児童数 297 人（R3.5.1 時点） ・ 普通学級数 12（全学年 2 クラス）、特別支援学級数 4。 ・ 校内に放課後児童クラブが設置されており、1～6 年生（59 人）が利用している。（R3.5.1 時点） ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。
中部中学校	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最も古い建物は昭和 52 年度に建設されている。 ・ 生徒数の増加に伴い、昭和 53 年度開校。 ・ 生徒数 366 人（R3.5.1 時点） ・ 普通学級数 11（1 年生のみ 3 クラス）、特別支援学級数 3。 ・ 指定避難所・指定緊急避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。

施設名称	概況（特徴・課題等）
北部保育園	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 54 年度に建設されている。 ・ 老朽化度 3.2 となっており、老朽化が進行していると考えられる。 ・ 園児数 104 人（定員 140 人）（R3.4.1 時点） ・ 低年齢児保育は生後 6 ヶ月～、延長保育は午後 7 時まで実施。 ・ 指定避難所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。
西部保育園	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 52 年度に建設されている。 ・ 園児数 47 人（定員 70 人）（R3.4.1 時点） ・ 低年齢児保育は生後 6 ヶ月～、延長保育は午後 7 時まで実施。 ・ 指定避難所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。
中部保育園	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 51 年度に建設されている。 ・ 園児数 140 人（定員 170 人）（R3.4.1 時点） ・ 低年齢児保育は生後 6 ヶ月～、延長保育は午後 7 時まで実施。 ・ 日曜・祝日は、休日保育を行っており、市内保育園・こども園利用者のうち希望者が事前申込の上利用できる。 ・ 指定避難所に指定されている。 ・ 耐震性能あり（耐震補強実施済み）。

施設名称	概況（特徴・課題等）
<p>ちゅうぶ 児童館</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 17 年度に建設されている。 ・ 0～18 歳の子どもを対象とした施設。 ・ 児童クラブが設置されており、蒲郡北部小学校（3年生以上・26人）、の児童が利用している。（R3.5.1 時点） ・ 耐震性能あり（新耐震基準による建築物）。
<p>北部公民館</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 52 年度に建設されている ・ 老朽化度 3.0 となっており、老朽化が進行していると考えられる。 ・ 地域避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり。
<p>西部公民館</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昭和 50 年度に建設されている。 ・ 老朽化度 3.2 となっており、老朽化が進行していると考えられる。 ・ 地域避難場所に指定されている。 ・ 耐震性能あり。

次回ワークショップのご案内

「第5回蒲郡北地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようお願いいたします。

1 日時

令和3年10月31日（日）

午後1時30分～午後4時30分

（受付開始時刻＊オンライン：午後1時 会場：午後1時15分）

2 お願い

- ご欠席の場合や会場（中部中学校 図書室）での参加を希望される場合は、10月22日（金）までに事務局へご連絡ください。
- 次回ワークショップの資料を郵送で事前に配布いたしますので、届きましたら資料に不足がないかご確認ください。参加の際に使用するZoomのID・パスコードも同封させていただきます。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部公共施設マネジメント課

担 当：上田・尾寄・星野

電 話：0533-66-1214

ファクス：0533-66-1183

E-mail：k-mane@city.gamagori.lg.jp